

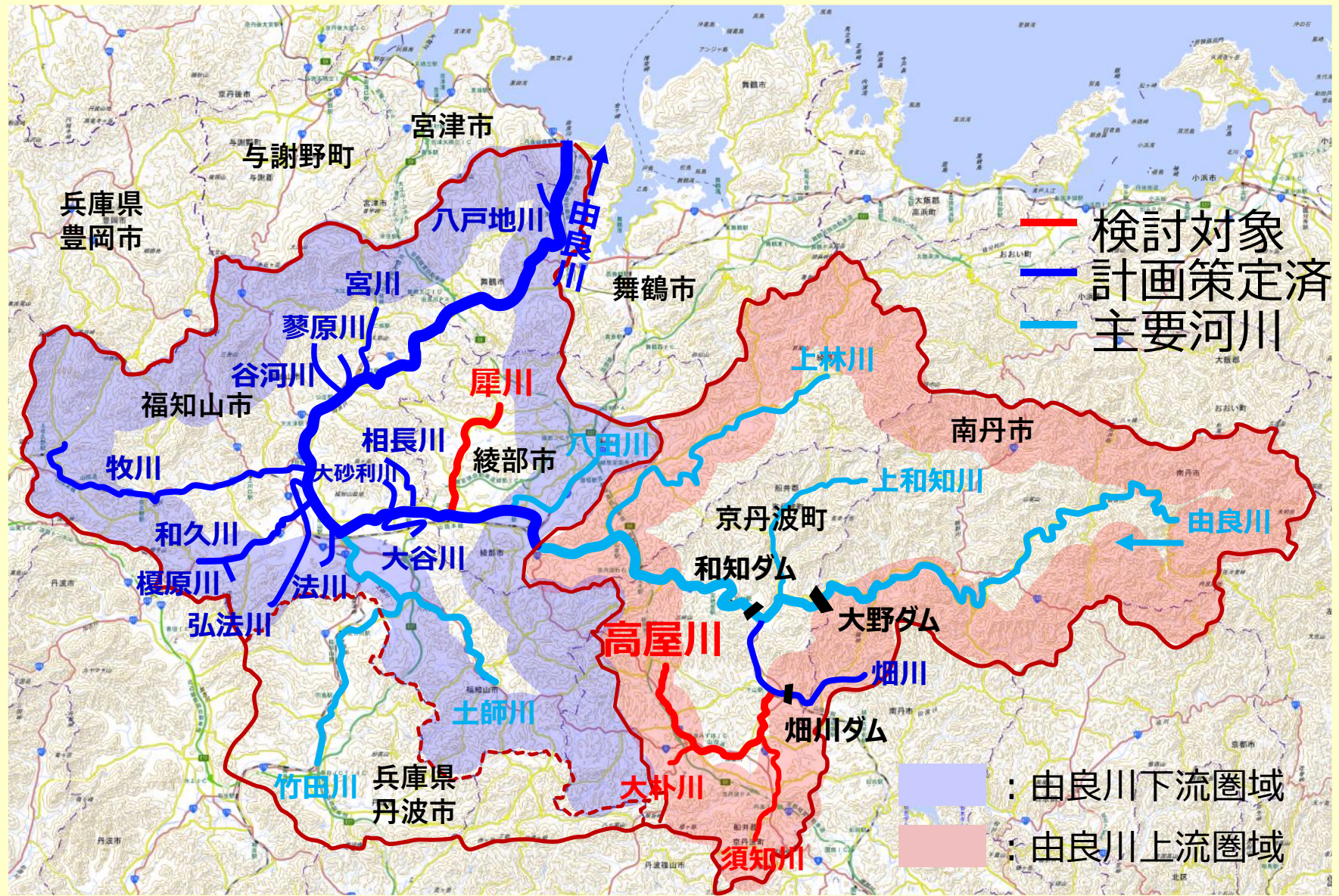
第37回由良川水系・二級水系 河川整備計画検討委員会

一級河川由良川水系由良川上流圏域
河川整備計画(変更原案)
のパブリックコメントの結果等について

令和7年10月31日

京都府

※対象圏域及び対象河川について



目 次

★ 一級河川由良川水系由良川上流圏域河川整備計画 (変更原案)のパブリックコメントの結果等について

1. パブリックコメントの実施概要
2. パブリックコメントの結果について
3. パブリックコメントに係る対応について
4. 関係機関事前協議の結果等について
5. 河川整備計画策定のスケジュール

★ 代替案と事業投資効果

1. 代替案の可能性
2. 事業の投資効果について

一級河川由良川水系由良川上流圏域 河川整備計画(変更原案)の パブリックコメントの結果等について

1. パブリックコメントの実施概要

■府民意見の募集

◇実施期間: 令和7年9月30日(火)～令和7年10月21日(火)《約3週間》

◇周知方法: 京都府公報による公示

記者発表(※京丹波町でも同時資料配布を実施)

京都府ホームページへの掲載

◇縦覧場所(8箇所)

京都府建設交通部河川課、南丹土木事務所、中丹東土木事務所

[関係市町]

綾部市役所、南丹市役所、京丹波町役場、京丹波町役場瑞穂支所

京丹波町役場和知支所

◇パブリックコメントに係る資料設置(15箇所)

府民総合案内・相談センター、各広域振興局総合案内・相談センター

京都府府税事務所、京都府立京都学・歴彩館、京都府消費生活安全センター



配架の様子
(府民総合案内・相談センター)



意見提出の様子(南丹土木事務所)

■関係機関との事前協議

◇協議先: 京都府関係部署(総合政策環境部、農林水産部、建設交通部、教育委員会)

関係市町(京都市、綾部市、南丹市、京丹波町)

2. パブリックコメントの結果について

縦覧結果

◇府民意見：17件（12名）

＜参考＞ホームページの閲覧者数

河川課	39
-----	----

※ 今回のパブリックコメント専用ページにおけるアクティブユーザー数



京都府ホームページ[意見募集ページ]

府民意見

項目	主な意見	回答・対応方針
府民意見	<p>＜要望＞</p> <p>須知荒堀地区、須知本町地区では平成16年台風23号、平成25年台風18号、平成26年台風11号において浸水被害が発生しているため、須知川の河川改修区間を延長して欲しい。</p> <p>14件</p>	<p>＜記載内容の変更あり＞</p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>
	<p>＜要望＞</p> <p>井堰や河川に土砂が堆積しており、河川断面を減少させているため対処して欲しい。</p> <p>2件</p>	<p>＜記載内容の変更なし＞</p> <p>流下阻害となる堆積土砂や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してしていきます。</p>

3. パブリックコメントに係る対応について①

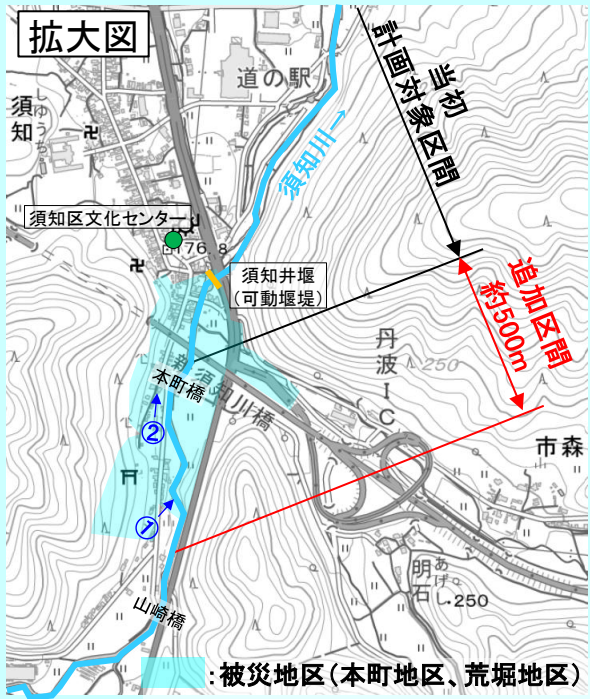
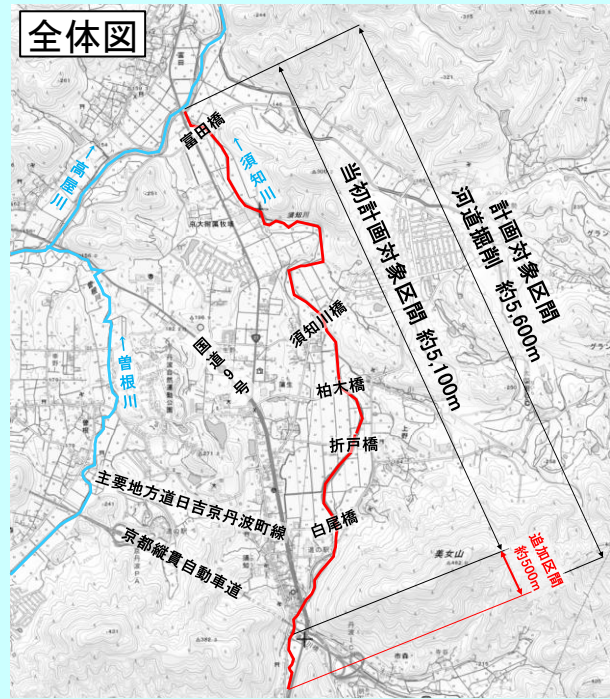
■府民意見

◇須知荒堀地区、須知本町地区では平成16年台風23号、平成25年台風18号、平成26年台風11号において浸水被害が発生しているため、須知川の河川改修区間を延長して欲しい。

■対 応

氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸する。

- 【当初】 高屋川合流点 0.0km地点～5.1km地点
- 【修正】 高屋川合流点 0.0km地点～**5.6km地点**



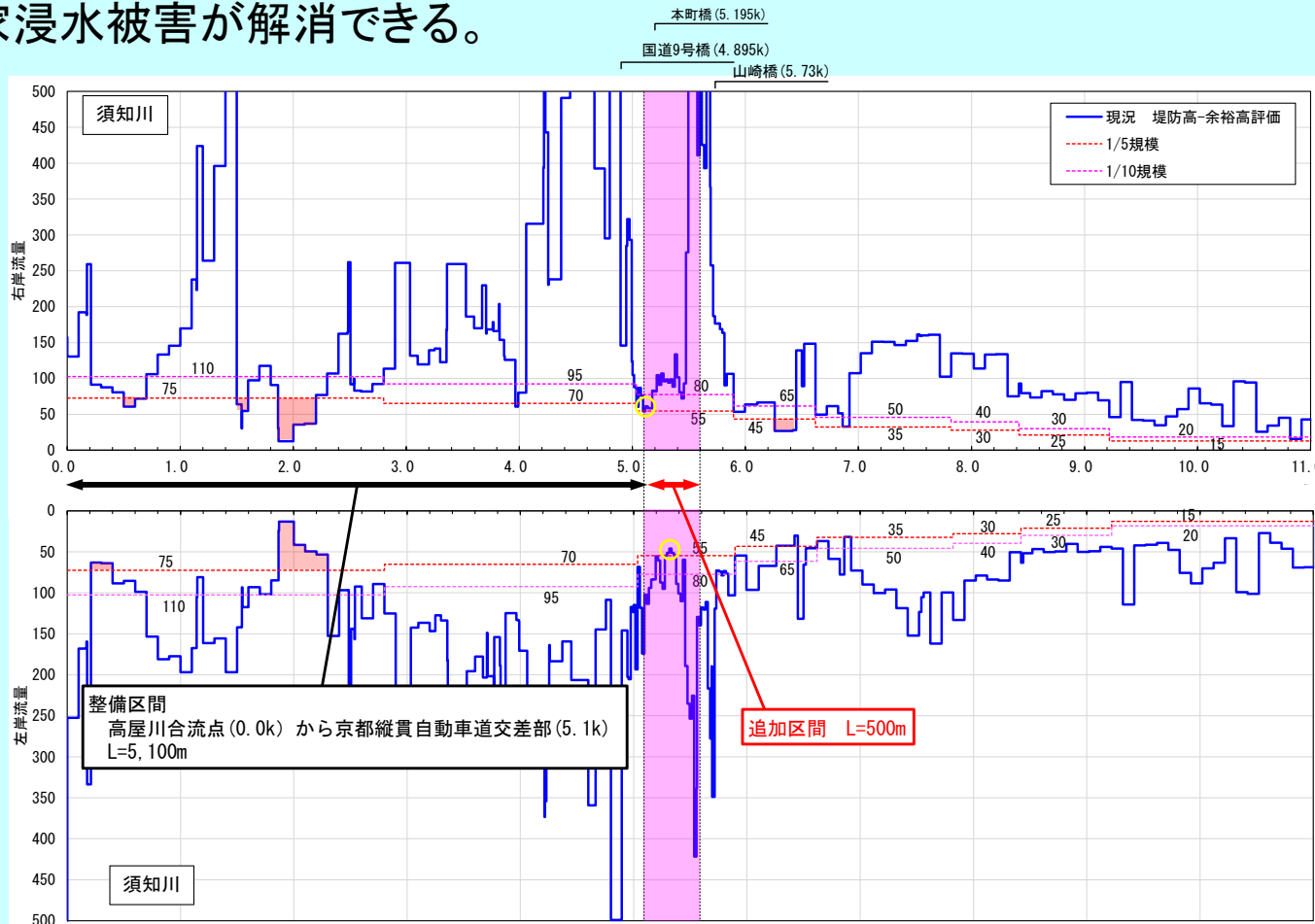
住民から提供写真
(H25.台風第18号による被災状況)



住民から提供写真
(H26.台風第11号による増水状況)

3. パブリックコメントに係る対応について②

- ◇今回新たに整備することより、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高60cm)以下で流下することが可能になる。
- ◇また、過去に浸水被害が発生した台風のうち、平成16年台風23号、平成25年台風18号については規模が大きいため、今回の整備では対応できない。
- ◇なお、今回の整備により平成26年台風第11号については、水田は浸水するものの、同規模の洪水による人家浸水被害が解消できる。



4. 関係機関事前協議の結果等について

■関係機関事前協議結果(要望・意見)

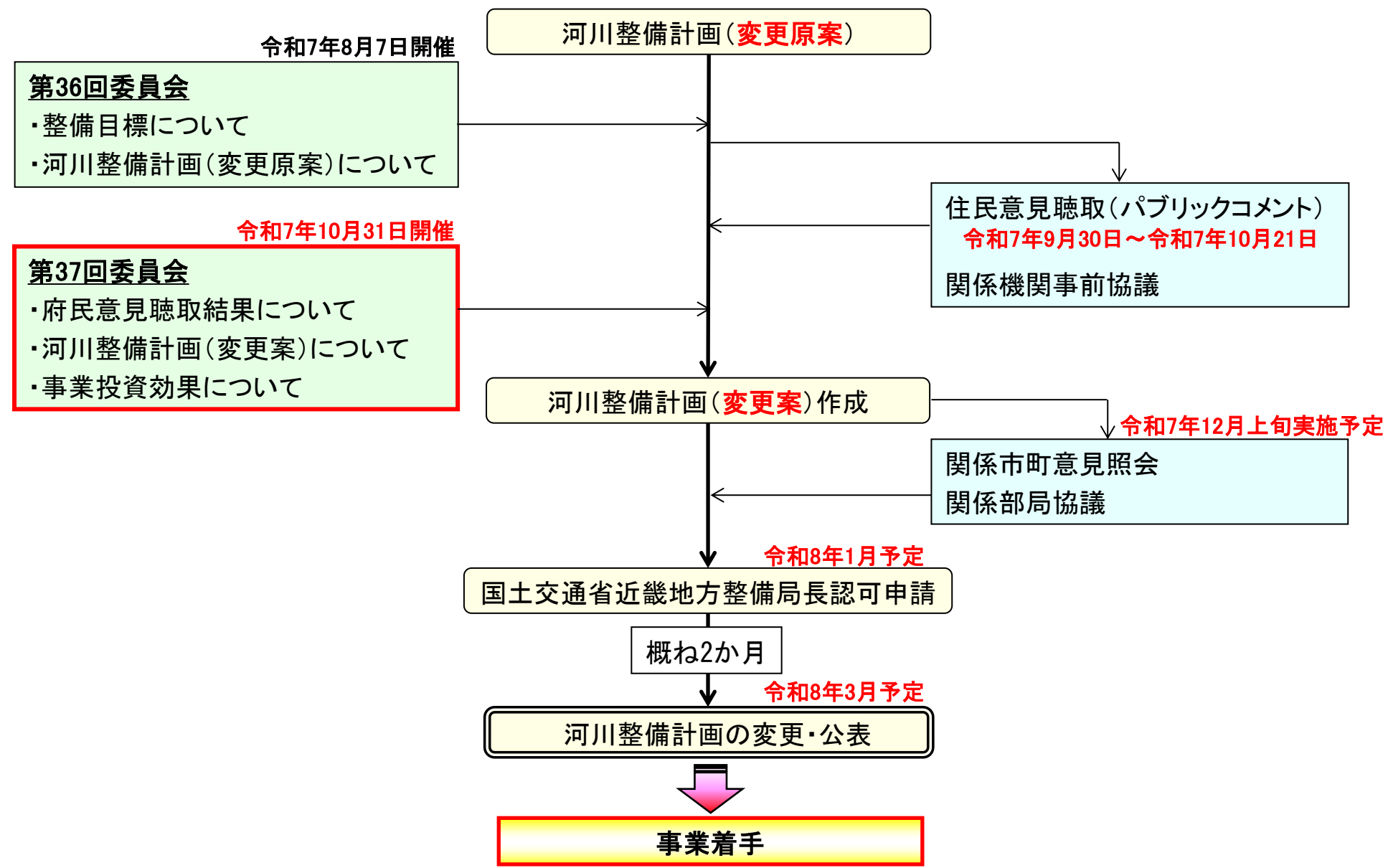
内容	回答・対応方針
<p><要望></p> <p>京都縦貫自動車道が開通しており、主要な交通の一つであると考えます。</p> <p>また、各路線が南北方向を主として通過している状況から、当該地域は交通の要衝とは言い難い。</p> <p>以下のような修正を検討願う。</p> <p>「圏域の南西部は、国道9号、27号、京都縦貫自動車道及びJR山陰本線などが通過しており、京都府の南北を結ぶ役割を担っている。」</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>御指摘のとおり、計画策定(平成19年8月)以降に京都縦貫自動車道が開通していることから「京都縦貫自動車道」を追記します。</p> <p>また、交通事情については記載内容を修正します。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P.1)</p>
<p><要望></p> <p>改築が必要となる橋梁等について、位置図に明示いただきたい。</p> <p>また、橋梁改築が不要である場合は、本文中から「河道改修に伴い必要となる橋梁(中略)の改築等をあわせて実施する。」を削除いただきたい。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>御意見を踏まえ、改築が必要となる橋梁を位置図に明示しました。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P.14,16)</p>
<p><意見></p> <p>計画に基づく河道掘削等のハード対策を実施する際は、既存の農業水利に影響が生じないよう配慮されたい。</p>	<p><記載内容の変更なし></p> <p>河道掘削等の実施により、農業水利に影響が懸念される場合は、当該施設管理者等と調整の上、施工することとします。</p>

4. 関係機関事前協議の結果等について

■関係機関事前協議結果(要望・意見)

内容	回答・対応方針
<p><要望></p> <p>本文P21「3.5 由良川上流域圏の健全な水環境に向けての取組」の3行目の「近年山が荒廃し、」を、「近年局地的な豪雨災害が多発し、これまで山地災害の発生リスクが低いと考えられていた箇所が災害が発生し、」に変更されたい。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>本記述は山の保全と治水とのつながりについて記載したもので、ご指摘のとおり修正すると豪雨災害を起因とした山地災害に関する記述になってしまい、趣旨が異なる記載になっています。</p> <p>また、山の荒廃については近年突発的に発生・増加したものではなく、これまでも問題となっている事項であることから計画案のとおり修正しました。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P.21)</p>
<p><要望></p> <p>本文P21「3.5 由良川上流域圏の健全な水環境に向けての取組」の5行目の「水源かん養機能」は「水源涵養機能」と表記されたい。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>令和2年7月8日付の森林法施行規則の改定以降、公文書では「かん養」を「涵養」と記述することになったため修正しました。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P21)</p>

5. 河川整備計画策定のスケジュール



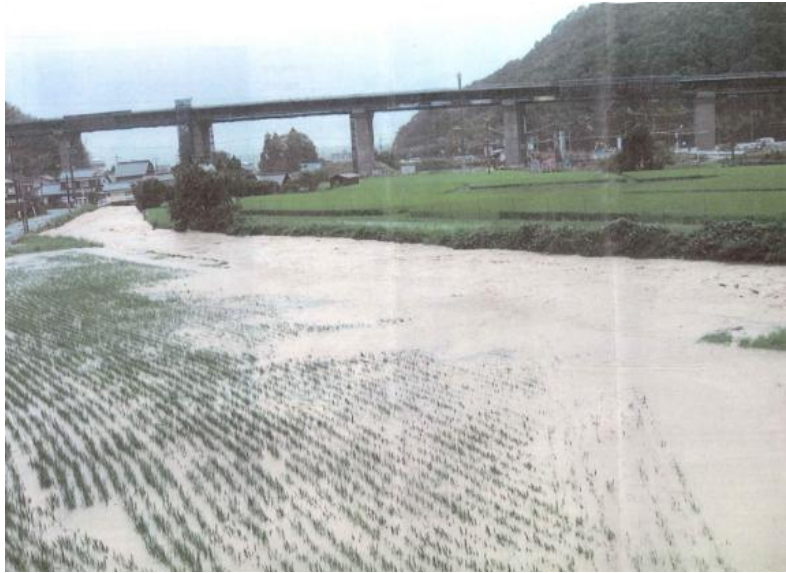
《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
1	要望	<p>須知川河川改修の距離想定が短い</p> <p>[内容] 何年か前に須知川本町にある井堰より上流5.6km位まで護岸を越流し本町43番地附近では腰のあたりまで水没し、商店の品々が流れて行く被害を受け、又、荒堀14番地附近では床下15～20cm位水没し、文化センターなどに避難された。</p>	<p>＜記載内容の変更あり＞</p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>
2	要望	<p>上記の件、河床掘削だけで無しに拡幅での改修を考えて欲しい。</p> <p>[内容] 河岸に人家がそびえ立ち、堤防と呼ばれる個所がなく今後に人的被害が想定される。</p>	<p>＜記載内容の変更あり＞</p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
3	要望	<p>須知地区、床上浸水10年間に二度 可動式堰堤の老朽化</p> <p>[内容] 地元須知において、由良川水系須知川では、この20年間で100年災害とも言われる家屋床上浸水を2度経験した。夜に車とも押し流す恐ろしい被害であった。 家屋では避難者50名以上が、また避難できない住民は自宅2階へと避難した。 地域では可動式堰堤上流680mが消防の防火用水として利用してきた。須知河川拡幅審議会を立ち上げて要望するも京都府から3度の青写真を頂いたがいまだに足ふみ状態が続いている。調査の上、図面も引いてもらったがどうなっているのか。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>
4	要望	<p>改修に伴う範囲を上流部（山崎橋）手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容] ①上流竹野地域での「みどり公社」による農地改良・河川の付け替えによって、台風の大雨時に土砂の堆積が増加して特に、湾曲した所ではアシやカヤが繁茂し河川断面積を一層減少させている。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>なお、流下阻害となる土砂堆積や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してしていきます。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
5	要望	<p>改修に伴う範囲を上流部（山崎橋）手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容]</p> <p>②須知井根の年中湛水状況の為（台風以外の大雨では井根を落とさない）、土砂の堆積を助長している。</p>	<p>＜記載内容の変更なし＞</p> <p>井堰の管理については管理者と調整させていただきます。 なお、流下阻害となる土砂堆積や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してしていきます。</p>
6	要望	<p>改修に伴う範囲を上流部（山崎橋）手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容]</p> <p>③特に、須知区の荒堀から区文化センターまでの地盤が低く水没しやすい(写真参考)。</p> 	<p>＜記載内容の変更あり＞</p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
7	要望	<p>改修に伴う範囲を上流部（山崎橋）手前まで拡大して頂きたい。</p> <p>[内容]</p> <p>④2013年9月の台風18号発生時に、須知区荒堀地区に於いては、床上浸水及び増水被害により、我が家の農業倉庫では、出荷米や乾燥機・粃すり機等の農業機械が水没し、甚大な被害を受けた。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
8	要望	<p>須知川(荒堀地区)河川改修をお願いします。</p> <p>[内容] 先の台風による増水で床下浸水30cmと床下に土砂の流入などの被害に会いました。大水が出るたびに親戚宅に避難をしています。 早期に河川を拡幅等の対処をお願い致します。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。</p> <p>そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P.16)</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
9	要望	<p>台風被害により自宅裏の須知川の氾濫により床下浸水の被害に合う。</p> <p>[内容] 台風:線状降水帯・短時間大雨、警報が出る度に心配しなければなら ない。早く須知川の整備をお願いしたい。土砂がたまりすぎ。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>なお、流下阻害となる堆積土砂や樹木については、必要に応じて撤去するなど適切に管理してしていきます。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P.16)</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
10	要望	<p>現在、須知区の環境委員をしておりますが平成30年から提示されております住民要望に対し、この計画に入っているものがあると思います。</p> <p>[内容] 須知区本町周辺で過去に床上、床下浸水したところがあり、16ページの地図からはずれております。 築堤をして頂く必要があると思います。 ぜひ共住民の要望をくみとって頂きたくよろしくお願い致します。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが、府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。</p> <p>そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>築堤(盛土)については、現況堤防高が計画堤防高より低い箇所を実施します。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P.16)</p>

<<参考>>パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
11	要望	<p>須知川流域に居住している須知区の評議員をしている者です。 須知川の改修は、地域住民の要望として平成30年に要望書を提出して依頼の課題と行政に対して大きな要望事項となっています。 本計画中に要望している区域が含まれておらず、行政に対する不信任感が募っています。 今一度計画の見直し・検討をお願いします。</p> <p>[内容] 本町橋を基点として本町橋上流（上流約200m）で河川氾濫が頻発しています。（堤防の決壊、床上床下浸水など） 河川の蛇行や川底の土砂の堆積など課題や問題も多く、整備改修の最重点箇所だと認識しています。 今一度対象区域を本町橋上流200mまで広げての計画の見直しをお願いします。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>
12	要望	<p>須知川、本町橋上流の改修について</p> <p>[内容] 河川整備計画（変更原案）から、本町橋周辺が入っていない。 過去に氾濫（水害（家屋、田、畑））になったことを踏まえて、本町橋上流の整備を願いたい。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
13	要望	<p>令和7年に示された整備計画中間案を拝見したが、本地区において最も危険性の高い本町地区地点が含まれていない懸念があります。</p> <p>[内容] 当該地点は過去に浸水被害を受けており、周辺には高齢者世帯も多く氾濫時の避難が困難な状況です。 住民の生命・財産を守る為、本町地区を整備計画に加えていただき、早期に改修工事が実施されますよう要望いたします。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点(0.0km地点)～京都縦貫自動車道(5.1km地点)までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L(堤防天端高-余裕高)以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正(P.16)</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
14	要望	<p>河川の氾濫が起こらないよう様要望する。</p> <p>[内容] H16年10月20日台風23号が京丹波町に大きな被害水害をもたらした。須知本町街道も大きな被害となり、河川氾濫で田、畑が全滅した。上流の橋が壊れその水が本町に流れ込み多くの家屋が床上げ浸水となった。胸まで水位があり川の流れと同じで大変危険な状態であった。私は自営業のため、1週間ほど休業となり、大きな損害を受けた。又H25年9月16日台風18号で2回目の浸水に合い台風23号と同じ被害に合った。最近の雨量は昔と違い竹野地区ばかり川幅を広げた工事してもらっても須知では川幅が狭くなるので氾濫してしまうのではないのでしょうか？整備区間は5,100mの拡幅工事を強く要望する。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。</p> <p>そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
15	要望	<p>現在須知区長をしており、平成30年当時から提示されている住民要望に対して本計画の効果に懸念点がございます。</p> <p>[内容]</p> <p>①須知本町周辺（過去の浸水箇所）がP16の地図から外れている。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
16	要望	<p>現在須知区長をしており、平成30年当時から提示されている住民要望に対して本計画の効果に懸念点がございます。</p> <p>[内容]</p> <p>②築堤の必要性があるのではないかと（改修イメージ図への明記なし）</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>なお、河道拡幅を実施する場合は、ほとんどの橋梁で架け替えが必要になり、事業費が河道掘削案を上回るうえ、工期も用地買収が必要になることから相当な期間を要することになります。</p> <p>そのため、より効率的かつ経済的な工法として河道掘削を実施することとします。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>築堤（盛土）については、現況堤防高が計画堤防高より低い箇所で行います。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

《参考》パブリックコメントの結果等について(詳細)

No.	種別	質問・意見（原文ママ）	回答・対応方針
17	要望	<p>本計画に対する懸念点</p> <p>[内容] 須知区本町周辺（過去に何度か浸水した箇所）がP16の整備区間から外れているので再度見直しを含め検討をして頂きたい。</p>	<p><記載内容の変更あり></p> <p>氾濫形態や地形条件、土地利用状況等を勘案し、高屋川合流点（0.0km地点）～京都縦貫自動車道（5.1km地点）までを計画対象区間としていたが府民意見を踏まえ、現地状況等を精査した結果、計画対象区間を5.6km地点まで延伸します。</p> <p>整備内容については河道掘削、河道拡幅、遊水地で比較し、社会的影響や施工性、経済性などの観点から河道掘削が最適案と判断しています。</p> <p>今回の整備に伴い、当該地区では5年確率規模の降雨による洪水をH.W.L（堤防天端高-余裕高）以下で流下することが可能になります。</p> <p>また、過去に浸水被害が発生した平成26年台風11号と同規模の洪水については、水田は浸水するものの、人家浸水被害を解消できます。</p> <p>なお、平成16年台風23号及び平成25年台風18号については、整備目標である5年確率規模を大きく上回り、下流から更に大規模な整備が必要となるため、本計画では対応できません。</p> <p>⇒河川整備計画本文の記載を修正（P.16）</p>

代替案と事業投資効果について

1. 代替案の可能性

		①河道掘削案	②河道拡幅案	③河道掘削＋遊水地案
改修概要		河道掘削（現況川幅内で掘り下げ）し、全量を河道で対応する案 現況の川幅程度の確保を基本とし、河床を概ね1～2m掘り下げる。	河道拡幅し、全量を河道で対応する案 現況の河床高を目安に、現況の川幅から概ね0m～26m拡幅する。	遊水地で洪水の一部をカットし、残りを河道掘削で対応する案 ・現況の川幅程度の確保を基本とし、河床を概ね1m掘り下げる。 ・遊水地：和田大橋上流（左右岸） 貯留容量60万m ³ （遊水地の掘削考慮） 洪水調節量70m ³ /s
流量配分				
社会的 影響	用地買収	・他2案に比べて小さい。 ○	・広範囲にわたって用地取得および家屋や施設等の移転が必要となる。（補償物件：約5戸） △	・広範囲にわたって遊水地整備のための用地取得が必要になる。（A=約22ha） △
	交通 （橋梁）	・橋梁への影響は河道拡幅案に比べて小さい。 （橋梁架替：6基） △	・河道拡幅により、ほぼ全ての橋梁が架け替え対象となり、工事中は交通面などの社会的影響が大きい。 （橋梁架替：21基） ×	・橋梁への影響は河道拡幅案に比べて小さい。 （橋梁架替：4基） △
	環境	・河道内の改変に伴い、瀬淵や水際環境等への影響がある。 △	・河道内の改変に伴い、瀬淵や水際環境等への影響がある。 △	・河道内の改変に伴い、瀬淵や水際環境等への影響がある。 ・遊水地整備箇所で大規模な掘削が必要となり、地下水を含め、周囲環境への影響が懸念される。 ×
維持管理		・堤防等は広域的な管理が必要であるが、維持管理は比較的容易。 ○	・堤防等は広域的な管理が必要であるが、維持管理は比較的容易。 ○	・遊水地や周囲堤等の維持管理が必要となる。 ・運用面において地元の理解・協力が必要となる。 △
施工性		・河道内で全て対応するため、大きな支障はない。 ○	・拡幅する際に、近接する施設や構造物等への配慮が必要となる。 △	・遊水地整備箇所の地盤が軟弱な場合は、安定性確保のために地盤改良が必要。 △
工期		・河道内での対応が主になるため、他の案と比べて短期間での対策が可能。 ○	・用地買収や橋梁架け替え等に相当な期間を要することが想定される。 △	・遊水地の用地取得や土地利用について、地元の理解と協力を得るために相当な期間を要することが想定される。 △
経済性 （概算事業費）		66億円 ○	135億円 △	139億円 △
判定		○	×	×

2. 事業の投資効果について

河川名	整備内容		費用対効果		
	整備目標	メニュー	B 総便益 (億円)	C 総費用 (億円)	B/C 費用対効果
高屋川 大朴川 須知川	年超過確率1/5規模(概ね5年に1回程度で発生する降雨規模)の洪水を安全に流下させる。	河道掘削 築堤 橋梁架替 井堰改築	108.5	29.6	3.6

※治水経済調査マニュアル(令和7年7月版)に基づき算定

【総便益 B】

総便益B＝(評価期間における年平均被害軽減期待額の総和+評価期間末における残存価値)を現在価値化したもの。

- 年平均被害軽減期待額:事業を実施することにより毎年どの程度被害の軽減ができるかを金額で表したもの。
- 残存価値:評価期間終了後の整備した施設の価値
- 評価期間:整備期間+施設完成後から50年

【総費用C】

総費用C＝各評価時点の(事業費+維持管理費)の総和を現在価値化したもの。

- 事業費:施設の整備に係る工事費、整備に付随する工事(橋梁架替や井堰改築等)に係る費用、整備にあたり必要となる用地の取得や移転補償などに係る費用の合計
- 維持管理費:堤防などの治水施設の点検や修繕等の維持管理に係る費用
- 治水経済マニュアル(令和7年7月版)に基づき、工事諸費及び消費税は除いており、現在価値化した費用であることから、P.23の概算事業費(66億円)とは整合しません。